

EU Indicators

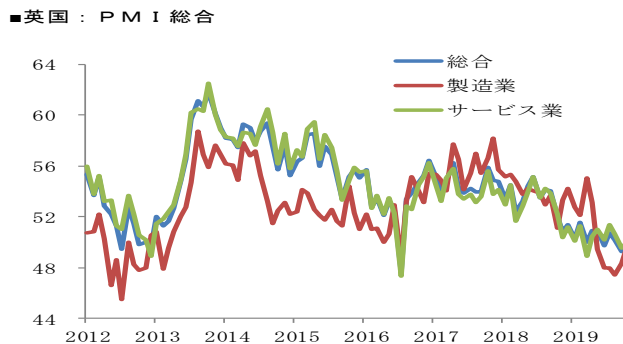
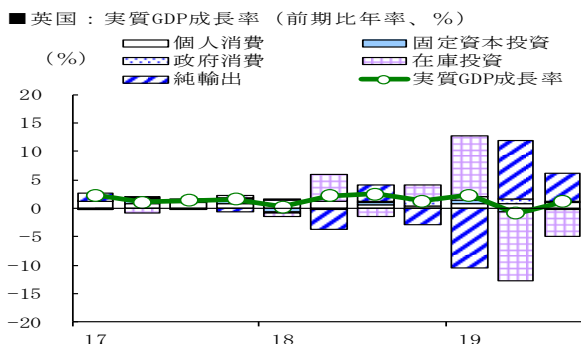
欧州経済指標コメント：7-9月期英国GDP

発表日：2019年11月11日(月)

～リセッション入りは回避～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

- 英国の7-9月期の実質GDP成長率は前期比+0.3%、同年率+1.2%と、2012年10-12月期以来のマイナス成長を記録した4-6月期の落ち込み分(同-0.2%、同年率-0.9%)を取り戻した。前期の落ち込みの主因は、3月末の離脱期限(当時)を控えた企業の在庫積み増しや輸入急増による反動が出たもの。7-9月期はこうした反動がなくなったことに加え、10月末の離脱期限(当時)を控えた新たな在庫積み増しの動きも成長率の下支え要因となった可能性がある。2四半期連続マイナス成長によるテクニカル・リセッション入りは回避。10月のPMIも製造業を中心に僅かに悪化モメンタムが緩和している。
- とは言え、離脱を巡る不透明感から投資活動の手控えが続いているほか、ここに来て雇用の改善ペースに陰りが広がっている。離脱期限は来年1月末まで延期され、当面は不透明感が継続するうえ、合意なき離脱の混乱が回避されたとしても、今度は移行期間中に多くの国と自由貿易協定を結べるかを巡る不透明感も継続する。英国のEU離脱が確定したからと言って、すぐさま手控えられていた投資活動の全てが動き出す訳ではなさそうだ。
- 需要項目別の内訳は、今のところ良好な雇用環境に支えられ個人消費が堅調に拡大。住宅投資が僅かに持ち直したものの、先行き不透明感を反映して企業の設備投資の冷え込みが続き、合意なき離脱対応の一巡から公共投資と在庫投資が揃って2四半期連続で落ち込んだ。過去2四半期大きく上下動した輸出入は、輸出が前期の落ち込みを回復したことで2四半期連続で前期比プラス寄与となった。



■英国GDP(前期比年率< % >、括弧内は寄与度< %ポイント >)

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
17/7-9月期	1.8	1.4	(0.9)	1.5	1.1	▲ 1.5	(▲ 0.2)	(0.4)	4.2	2.6
17/10-12月期	5.6	1.6	(2.2)	1.3	0.8	▲ 4.6	(▲ 4.4)	(▲ 0.6)	▲ 5.8	▲ 3.9
18/1-3月期	2.2	0.2	(▲ 0.1)	2.2	▲ 0.9	▲ 3.7	(2.5)	(0.3)	▲ 2.8	▲ 3.6
18/4-6月期	3.6	2.1	(5.6)	2.0	▲ 0.1	▲ 1.7	(5.5)	(▲ 3.5)	▲ 9.9	1.7
18/7-9月期	4.9	2.5	(▲ 0.3)	1.0	1.7	1.9	(▲ 4.8)	(2.8)	14.4	3.8
18/10-12月期	2.0	1.3	(4.1)	0.7	6.6	▲ 0.4	(▲ 2.9)	(▲ 2.8)	1.9	11.6
19/1-3月期	4.9	2.3	(12.8)	1.2	3.3	3.5	(4.8)	(▲ 10.4)	6.4	47.9
19/4-6月期	3.0	▲ 0.9	(▲ 11.1)	1.2	4.4	▲ 3.7	(▲ 13.0)	(10.2)	▲ 23.9	▲ 42.6
19/7-9月期	2.2	1.2	(▲ 3.6)	1.6	1.2	▲ 0.9	(▲ 5.5)	(4.8)	22.3	3.3

出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。